

## 眼科医として

日本眼科医会会長・高野眼科病院院長  
高野 繁

平成22-24年度厚生労働科学研究費補助金  
障害者対策総合研究事業 研究成果発表会

シンポジウム  
視覚リハビリテーションの空白②

「眼科医として」

公益社団法人 日本眼科医会 会長 高野 繁  
平成26年2月9日(日)

### 私の立ち位置

- ① 日本眼科医会会長の立場
- ② 眼科開業医の立場

### 眼科医組織

- ① 公益財団法人 日本眼科学会  
23関連学会  
主に学術的な問題を取り扱う
- ② 公益社団法人 日本眼科医会  
47都道府県眼科医会  
主に医療政策的な問題を取り扱う

### 日本眼科医会の取り組み

[公衆衛生部が担当]

- ① 社会適応訓練講習会開催団体への援助
- ② 障害者団体の活動への協力
- ③ ロービジョンネットワーク検討会の開催

### ロービジョンネットワーク検討会

外部メンバー

高橋 広先生 (北九州市立総合療育センター)  
仲泊 聡先生 (国立障害者リハビリテーションセンター)  
山縣祥隆先生 (山縣眼科病院)

内部メンバー

白井正一郎・福下公子副会長  
福田敏雅・杉浦寅男常任理事  
平塚義宗理事 (座長)

### ロービジョンネットワーク検討会の取り組み

- ① ホームページに全国のロービジョンケア施設を掲載 (国民向け)
- ② ホームページに全国の視覚リハビリテーション施設を掲載 (眼科医向け)
- ③ スマート・サイトの推進

## 眼科開業医

### 「理解と紹介」

理解：ロービジョンケアが必要な人に一番接しているのは眼科医なので、その働きかけがなければケアの存在を知らないまま放置される可能性が高い。眼科医はこのことを理解して、ロービジョンの方々に対して何らかの関与をすべきである。

## 眼科開業医

### 「理解と紹介」

紹介：スマート・サイト等を利用して、患者の希望に沿ったロービジョンケア施設や視覚リハビリテーション施設を紹介することが重要である。

### 「生活の質」の向上のための連携

- ① 医療サービス
- ② 介護サービス
- ③ 福祉サービス

### 将来のロービジョン患者に対する医療サービス

- ① 網膜色素変性症に対する遺伝子治療
- ② 加齢黄斑変性に対するIPS治療

## メッセージ

ひとりひとりの眼科医が「理解と紹介」を念頭におき、ロービジョン患者に接することによって、視覚リハビリテーションの空白の一部は埋めることができると思われる。

この目的の達成のために日本眼科医会は、

- ① 会員への周知に努める
- ② 他職種の方々との連携強化に努める。





## 5. 資料 3) 点字毎日記事

点字毎日2014年2月16日

### 「関係機関トップが連携探る」 ―視覚障害リハのシンポで―

「視覚障害リハビリテーションの空白」と題したシンポジウムが9日、昨年3月に引き続き、東京都内で開かれた。今回は視覚障害リハ関係者のほか、眼科医、視覚障害の当事者組織と支援団体、さらに盲学校の代表が一堂に会し、それぞれの現状と課題を報告。「空白」を埋めるために連携してできることは何か、ヒントを探った。

「ファーストステップ」と名付けられたインターネット上の支援ソフトを厚生労働科学研究費補助金を受け昨年度までに開発した研究チーム（代表者＝仲泊聡ナカドマリサトシ・国立障害者リハビリテーションセンター病院眼科医）が、今年度取り組んだソフトの検証を目的とした研究の成果発表会として企画した。

研究メンバーの一人で視覚障害リハビリテーション協会の吉野由美子ヨシノユミコ会長は、シンポジウムの狙いについて、関係者の連携の必要性とそれを実現する困難さに触れた上で「それぞれは支援に努力をしているが、互いのことが分からないのが今の状況。じっくり理解し合う第一歩として、会って話をするところから始めるのが狙い。勉強し合う場にしたい」と話した。

各分野を代表して、日本眼科医会から高野繁タカノシゲル会長、日本ロービジョン学会の加藤聡カトウサトシ理事長、日本盲人会連合の竹下義樹タケシタヨシキ会長、日本盲人社会福祉施設協議会の高橋秀治タカハシヒデハル理事長、全国盲学校長会の三谷照勝ミタニテルカツ会長が登壇して発言した。

このうち東京大医学部付属病院医師の加藤氏は、ロービジョンケアに対する眼科医の理解不足や国内での地域格差などを問題点として挙げた上で、この分野の研究や臨床を特殊化しないことが大事だと指摘。「普通の臨床の延長線上にあるべきものとして取り組みたい」と述べ、普及に向けてリーダーシップを発揮していく姿勢を示した。

開業医の高野氏も、眼科医の理解を促し、患者に対するロービジョンケアや視覚障害リハの施設を紹介する実践を重ねていくことが必要との認識を示した。将来、遺伝子治療やiPS治療により医療サービスでも貢献できる可能性があるとして、今からロービジョン患者との結びつきを深め、関係機関と連携しておくことが重要だと述べた。

シンポジストおよび座長およびその所属組織の紹介



**竹下 義樹**

日本盲人会連合会長  
弁護士(つくし法律事務所所長)  
<http://tsukushilo.com>

**日本盲人会連合とは**

<http://www.normanet.ne.jp/~nichimo/>

日本盲人会連合(日盲連)は、視覚障害者当事者団体により構成され、視覚障害者福祉の向上を目指す社会福祉法人である。全国の盲人福祉協会、視覚障害者協会等の視覚障害者団体に対する連絡及び助成事業、点字出版、更生相談、録音図書製作、福祉用具販売斡旋、あん摩・指圧・はり、さゆう等の経営指導、関連研究等の事業を展開している。



**高橋 秀治**

日本盲人社会福祉施設協議会理事長  
社会福祉法人ぶどうの木ロゴス点字図書館館長  
<http://www.fesco.or.jp/winner/h23/223.php>

**日本盲人社会福祉施設協議会とは**

<http://www.ncawb.org>

日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)は、視覚障害者支援施設および団体の全国組織である。点字に関わる諸問題を扱う「点字出版部会」、視覚障害者への情報提供事業をネットワークを組んで実施する「情報サービス部会」、全国のあらゆるタイプの視覚リハ施設からなる「自立支援施設部会」、視覚障害者の生活する場を提供する施設が加盟する「生活施設部会」、視覚障害者用具を作製またはサービスを行う施設や会社からなる「用具部会」により、日常活動を行っている。



**三谷 照勝**

全国盲学校長会会長  
東京都立文京盲学校校長  
<http://www.bunkyo-sb.metro.tokyo.jp/pic/gaiyou/aisatsu.htm>

**全国盲学校長会とは**

<http://www.zentoku.jp/dantai/mou/>

全国盲学校長会は、全国の盲学校の校長が参加し視覚障害教育振興普及を図る活動を行う組織である。盲学校教育に関する調査研究、盲学校教育振興に関する世論の喚起、研究会、協議会、講習会等の開催、教職員の地位待遇の向上、会報や図書等の刊行、盲学校教育の振興に関して、当局への建議、又は意見の公表等を主な活動とする。



**加藤 聡**

日本ロービジョン学会理事長  
眼科医師(東京大学医学部眼科学講座准教授)  
[http://www.todaiganka.jp/admission/new\\_ad/](http://www.todaiganka.jp/admission/new_ad/)

**日本ロービジョン学会とは**

<http://www.jslrr.org>

日本ロービジョン学会は、視覚に障害を有する児・者へのハビリテーション・リハビリテーションに関する学際的な研究および臨床の向上と、会員同士および諸外国との交流を目的に、眼科医、視能訓練士、看護師などの医療関係者と教育、福祉、労働、ロービジョン関連機器に携わる企業関係者など様々な職種の方々が参加する学際的な学会である。



**高野 繁**

日本眼科医会会長  
眼科医師(高野眼科医医院院長)  
<http://www.gankaikai.or.jp/about/01/>

**日本眼科医会とは**

<http://www.gankaikai.or.jp>

日本眼科医会は、都道府県眼科医会との連携のもと、広く国民に対し正しい眼科医療の啓発及び教育活動を行うとともに、眼科学及び眼科医療に関する調査研究、公衆衛生活動、会員の倫理の高揚及び資質の向上を図り、もって国民の保健・福祉の向上に寄与することを目的とする約14,000名の眼科医で構成される組織である。



**吉野 由美子**

視覚障害リハビリテーション協会会長  
元高知女子大学社会福祉学部准教授  
<http://yoshino-yumiko.net>

**視覚障害リハビリテーション協会とは**

<http://www.jarvi.org>

視覚障害リハビリテーション協会は、視覚障害者(児)に対するリハビリテーションに関心をもつ者相互の学際的交流を図り、理解を深めるとともに、指導技術の向上を図る活動を通して、視覚障害者(児)のリハビリテーションの発展・普及に寄与することを目的とし、社会福祉施設職員、盲学校・弱視学級教諭、大学・研究機関の研究者、眼科医、視能訓練士、ボランティア活動家、視覚障害者やその家族等によって構成される組織である。

**仲泊 聡** 国立障害者リハビリテーションセンター病院第二診療部長・眼科医師

**国立障害者リハビリテーションセンターとは** <http://www.rehab.go.jp>

国立障害者リハビリテーションセンターは、障害のある人々の自立および社会参加を支援するため、総合的な医療・福祉サービスの提供、新しいリハビリテーション技術や福祉機器の研究開発、リハビリテーション専門職の人材育成、障害に関する国際協力等を実施する厚生労働省社会・援護局に属する機関である。

平成25年度厚生労働科学研究費補助金  
(障害者対策総合研究事業(感覚器障害分野))

## 次世代視覚障害者支援システムの実践的検証

(H25-感覚-一般-005)

### 総括研究報告書

発行日 平成26(2014)年3月

発行者 研究代表者 仲泊 聡

発行所 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

tel 04-2995-3100 fax 04-2995-3132



